

永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2016年 11月

「世からの分離（II）」 「勝利の生涯」 「答えは、黙示録7章の中にある」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

「世からの分離(II)」

4

聖書の教え

朝のマナ

「勝利の生涯」

7

今日のわたしの生涯

現代の真理

「答えは、黙示録7章の中にある」

38

七つの封印と生ける神の印

力を得るための食事

「ココナッツクッキー」

50

お話コーナー

「戦いの日々(I)」

52

イエスの物語

教会

【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

電話：0494-22-0465

FAX：0494-40-1045

【高知集会所】

〒780-8015 高知県高知市百石町 1-17-2

電話：088-831-9535

【沖繩集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21

電話：0980-55-8136

アクセス

ホームページ：<http://www.4angels.jp>

メール：support@4angels.jp

発行日 2016年10月31日

編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Dreamstime on front cover;

HighRes on pages 8, 52, bible masterpieces on back cover.

「だれか、わがしもべのほかに目しいがあるか」

何が思い、魂、体の純潔さを構成しているかを知ること、最上級の教育である。……

すべての人は自由な道徳的存在であり、そのような者として自分の思想が正しい通路を走るようしなければならない。……もしサタンが思いを低く肉欲的な事柄にそらそうとするならば、それを引き戻し、永遠の事柄の上に置きなさい。そして主は、ただ純潔な思想だけを維持しようとする断固とした決心をごらんになるとき、思いを磁石のように引き付けて、思想を清めて下さる。……改革する人々の最初の働きは想像を純潔にすることである。……墮落した想像へ屈するよう誘惑されるときには、恵みの御座へ逃れていき、天からの力を祈り求めなさい。神のみ力のうちに、想像は純潔で天来のものにとどまるよう律することができる。……

彼らは自分たちが悪を見たり、学んだりすることがないように、自分たちの目を閉じるべきである。彼らは邪悪なことを聞いて、自分たちの思想と行動の純潔にしみをつけるような知識を得ることがないように、耳を閉じるべきである。そして彼らは、墮落したやりとりを口にし、自分たちの口に偽りが見いだされることがないように、自分たちの舌を守るべきである。すべての人はこの世で恩恵期間のうちにいる間、自分の行動に責任がある。すべての人は自分たちの行動を制御する力を持っている。もし彼らが徳や思想と行為の純潔において弱いなら、無力な者の友なるお方から力を得ることができる。イエスは人性の弱さをみな知っておられる。そしてもし請われるならば、最も強力な誘惑に打ち勝つ力を与えてくださるのである。すべての人はこの力を、もし謙遜のうちにもとめるならば、得ることができる。(わたしたちの高い召し 337)

使徒ペテロは信者たちに、禁じられた話題へと心がさまよわないように、あるいは、つまらぬことにその力が浪費されないようにすることが、いかに大切かを教えようと努めた。サタンの策略のとりこにならないようにしようと思う者は、魂の通路をよく見張っていないと見なければならない。思いを不純にするようなものを読んだり、見たり、聞いたりしないようにしなければならない。魂の敵がほのめかすような問題に、手当たり次第にとびついたりしないよう、心を引きしめていなければならない。心は忠実に見張られていなければならない。でないと、外部の悪が内部の悪を目覚めさせて、魂を暗黒の中にさまよわせるであろう。「心の腰に帯を締め、身を慎み、イエス・キリストの現れる時に与えられる恵みを、いささかも疑わずに待ち望んでいなさい。……無知であった時代の欲情に従わず、むしろ、あなたがたを召して下さった聖なるかたにならって、あなたがた自身も、あらゆる行いにおいて聖なる者となりなさい。聖書に、『わたしが聖なる者であるから、あなたがたも聖なる者になるべきである』と書いてあるからである」。(患難から栄光へ下巻 217, 218)

17章 世からの分離(II)

交わり

神はご自分の民をこの世における光とされました。そのようなものとして、神の民は自分たちの周りにいる人々に福音のメッセージを伝えるという目的をもって彼らとの社交関係に入るべきです(マタイ 5:13-16; ヨハネ 17:15)。しかし、神はまたご自分の民と世の間にはっきりとした区別を設けられました。もしわたしたちがキリストと共にいるものと認められたければ、世俗的な社交、すなわち自分たちのクリスチャン経験に有害となるものを遠ざけることでしょう。わたしたちは自分の身をキリストが共に行くことがおできにならないような場所へ置くことはできません(エゼキエル 44:23; アモス 3:3; コリント第二 6:14-17)。

この原則を理解しない自称クリスチャン、すなわち忌むべきものを愛するクリスチャンは、悪いしもべと同類です(マタイ 24:48-51)。世からの分離には、秘密結社、政党、労働組合、不信者との事業提携、またその他いかなる世との同盟からも分離することを含みます(イザヤ 8:12; ヨハネ 8:23; 18:36)。

それ自体、律法にかなったものであっても、悪い方法で、悪い仲間と、悪い場所で、悪い時に行なわれると、サタンの罠となることもあります。しかし、まず、わたしたちは最も明らかな悪、すなわち世俗的な交わり、不適切な音楽、競い合うゲーム、娯楽、慎みのない流行、政治への関与、近代メディアの誤用、そしてマスメディアを通じてもたらされる悪魔的な「ごみ」の墮落した感化力、これらは概して弱い思いに訴えるところがありますが、これらを遠ざけるべきです(ペリピ 4:8; 詩篇 101:3; 教育に関する特別な証 211; 教師、両親、生徒への勧告 367)。

「自己を否定し、まじめで、謙遜で、聖潔な生活を送る人々だけがイエスに真に従う者である。そしてこのような人は世を愛する人々の社会を楽しむことはできない」(同上 4 巻 633)。

「病んだ想像力を持ち、自分たちにとって宗教が鉄の杖を持っているかのよう

に支配する暴君となっている人々がいる。そのような人々は絶えず、自分たちの墮落を嘆き、想像上の悪にうめいている。愛は彼らの心の中に存在しない。いつも彼らの眉間にはしわが寄っている。彼らは青年やそのほかだれからであっても、無邪気な笑い声に凍りつく。彼らはすべてのレクリエーションや娯楽を罪だと考え、思いは絶えずまさに厳しく深刻なレベルにまでのぼりつめていなければならないと考える。これは一つの極端である。もう一方は健康を得るためには、思いが新しい娯楽や気晴らしを考案するために絶えず緊張していなければならないと考える。彼らは興奮に頼ることを学び、それがないと落ち着かない。そのような人は真のクリスチャンではない。彼らはもう一方の極端である。キリスト教の真の諸原則は、すべての人の前に幸福、計り知れない高さ、深さ、長さ、広さの源を開く」(同上1巻565)。

「男女が自分の子供たちを偽りの流行的な習慣なく育て、また子供たちに役に立つ者となることを教えるよう彼らを教育しなさい。娘は母親の下で有益な労働をするように、単に家の中の労働だけでなく、屋外の労働も同様に行うよう教育されるべきである。母親はまた息子たちもある一定の年齢まで屋内と屋外の有益なことをするように訓練することができる。

わたしたちの世には、楽しみを求める娯楽的な運動をほとんど全く不要とするほど、必要かつ有益なすべき事柄が十分にある。頭脳、骨、そして筋肉は、目的をもって使い、善をなし、一生懸命考え、彼ら一青年たちが知性と身体器官の強さを発達させるような計画を立てることによって、堅実性と強さを得ることになる。それらによって、青年たちは神に栄光を帰すことのできるように神が与えて下さったタラントを実際的に用いるようになるのである。……

わたしは単純なボール遊びをとがめはしない。しかし、これはその単純さにおいてさえ、やりすぎる可能性がある。わたしはいつもほとんど例外なくこれらの娯楽によって引き起こされる結果を恐れる。それによって、真理の光をキリストなしに滅びつつある魂に伝えるために費やされるべき資金の流出へつながる。娯楽と自分を喜ばせるために資金を費やすことは、次第に自己満足へと導いていき、これらの娯楽を求めるゲームにおいて教育することは、クリスチャン品性の完成にとって好ましくないような事柄への愛着と情欲を生み出すようになるのである」(セクレッド・メッセージ 2巻321, 322)。

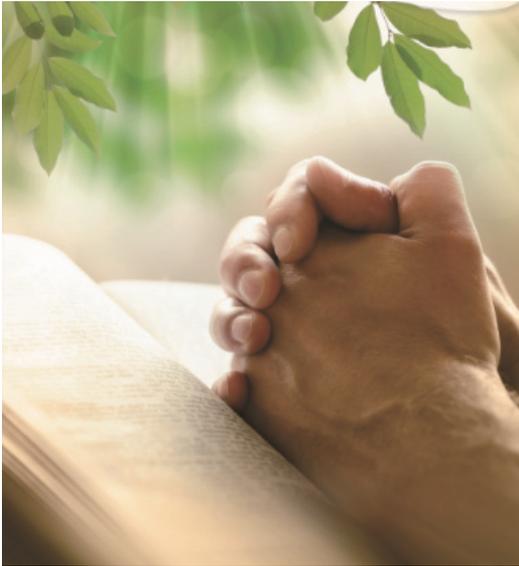
「都会や町に住んでいる数家族が一緒に集まって、知的肉体的な重荷となつ

ている仕事を離れ、自然の風景の美しい湖畔や森などのあるいなかへピクニックに出かけることはよいことです。果実や穀物のような簡単に健康的な食物を用意して、木陰や青空の下にむしろをひろげなさい。車に乗ったり、運動したり風景をながめたりすることによって、食欲は増し、王様もうらやむような食事を楽しむことができます。

こういう機会には、親も子供たちも、心配や苦労や働きから解放されなければなりません。親たちは、子供たちと一緒に子供になって、なんでも子供たちのためにできるだけおもしろくしなければなりません。そして終日をレクリエーションに過ごさなさい。戸外の運動は、家の中で仕事をしている人や、すわって仕事をしている人々の健康を増進します。できる者はみな戸外の運動をすることを義務と感じなければなりません。そのために、損をするものは何もなく、むしろ多くの益が得られます」(青年への使命 393)。

今日のわたしの生涯

My Life Today



11月「勝利の生涯」

神の武具で身を固める

「悪魔の策略に対抗して立ちうるために、神の武具で身を固めなさい。わたしたちの戦いは、血肉に対するものではなく、もろもろの支配と、権威と、やみの世の主権者、また天上にいる悪の霊に対する戦いである。」(エペソ 6:11, 12)

戦いにのぞむ時に、自分の武器を捨てるのはわたしたちにとって安全ではない。その時こそ神の武具を身につける必要がある。すべての武具が一つひとつ必要不可欠である。(教会への証7巻190)

サタンは、この事実に対して人々の心を盲目にしようと常に努めている。そこでクリスチャンは、自分たちの戦いは、「血肉に対するものではなく、もろもろの支配と、権威と、やみの世の主権者、また天上にいる悪の霊に対する戦い」であることを、決して忘れてはならない。靈感による次の警告が、われわれの時代にまで幾世紀も鳴りひびいている。「身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたけるししのように、食いつくすべきものを求めて歩き回っている。」……

われわれの大敵サタンは、アダムの時代から今日に至るまで、圧迫と破壊のために力をふるってきた。そして今、彼は、教会に対する最後の戦闘の準備をしている。イエスに従おうとする者はみな、この残忍な敵と戦わなければならない。クリスチャンが、模範であられるイエスに倣えば倣うほど、サタンの攻撃の的になることは確実である。(各時代の争闘下巻 249, 250)

われわれは神の武具をすべて身につけて、いつでも暗黒の勢力と戦う用意がなければならない。誘惑や試練が襲ってくる時、神の所に行き、熱心に神に祈り求めよう。神は、われわれに何も与えずに去らせることをせず、われわれに、勝利するための、そして敵の力を打ち破るための、恵みと力とをお与えになる。ああ、すべての者がこれらのことの真相を知り、イエスの良い兵卒として困難を耐え忍んでほしいものである。そのとき、イスラエルは、神にあつて力強く、神の勢いによって前進するのである。(初代文集 112)

真理の帯を腰にしめ

「それだから、悪しき日にあたって、よく抵抗し、完全に勝ち抜いて、堅く立ち
うるために、神の武具を身につけなさい。すなわち、立って真理の帯を腰にしめ、」
(エペソ 6:13, 14)

わたしたちが自分の理解力に対して開かれている真理に従いつつ、自分た
ちに輝く光の中を歩むとき、その時わたしたちはより大きな光を受ける。わたした
ちが、100年前に父祖たちの持っていた光だけを受け入れるということは許され
ない。……わたしたちはどの点においても真理を欲しているのだから、その真理
を日々実生活にあてはめなければならない。(ヒストリカル・スタッフ 197)

思いと魂全体が真理を吹き込まれるべきであるが、それはあなたがキリス
トの生きた代表者になることができるためである。……神はあなたをご自分の聖
霊で満たし、上からの力を授けたいと思っておられる。偉大な人間になるために
労するのではなく、むしろ暗闇から驚くべきみ光に招き入れて下さったお方のみわ
ざを語り伝えつつ、良い完全な人になるよう労すべきである。神は、カレブやヨ
シュアのような、恐れを知らず、信仰と勇気をもって働く一途な人々を召しておら
れる。(レビュー・アンド・ヘラルド 1889年12月3日)

神の真理が心に深く根ざしていなければ、あなたは誘惑というテストに立ち
向かうことはできない。最も苦しい状況のもとでわたしたちを堅く守ることのでき
る唯一の力は、真理の中にある神の恵みだけである。不信心な者はどのような不
一致にも目ざとく注目し、弱々しくぐらついている人々をすぐに軽蔑する。青年に
自分たちの目標を高くさせなさい。キリストが約束された助けを求めて、へりくだ
った祈りをさせなさい。それは最後の清算と報いの大いなる日に直面するのに恥
じない感化を他の人々に及ぼすことができるためである。実業と宗教生活のあら
ゆる部門において、最も高尚なクリスチャンの原則を例証してきた人々は、言い
表わせないほど有利である。なぜなら、彼らは勝利者として神のパラダイスに入
るからである。(ユース・インストラクター 1886年11月10日)

正義の胸当

「正義の胸当を胸につけ」(エペソ 6:14)

教会はキリストの義の武具をまとして、最後の争闘を始めなければならない。「月のように美しく、太陽のように輝き、恐るべき事、旗を立てた軍勢のよう」に、教会は全世界に出て行って、勝利に勝利を収めなければならない。(国と指導者 下巻 326)

キリストご自身が備えて下さった覆いだけが、神の面前にわたしたちがまかり出ることを可能にする。キリストは、この覆い、すなわちご自身の義の衣を、悔い改めて信じるすべての魂に着せて下さる。「あなたに勧める。……あなたの裸の恥をさらさないため身につけるように、白い衣を買いなさい」とこのお方は言われる。……

「われわれの正しい行いは、ことごとく汚れた衣のようである。」わたしたちが自分自身で行うことのできることはみな罪で汚れている。しかし神の御子は、「われわれの罪を取り除くためにあらわれたのであって、彼のうちに罪はない。」罪は「律法の違反」であると定義づけられている。しかしキリストは律法のどの要求にも従順であられた。……地上におられる時に、キリストは弟子たちに、「わたしは父の戒めを守った」と言われた。ご自身の完全な服従により、このお方は、すべての人間が神の戒めに従うことができるようにして下さった。わたしたちがキリストに自分自身を捧げるとき……わたしたちはこのお方の命を生きる。これが、キリストの義の衣を着せられるという意味である。そのとき主がわたしたちを見られると、いちじくの葉で作った衣ではなく、裸でも罪の欠陥があるものでもなく、エホバの律法への完全な従順であるご自身の義の衣をご覧になる。(サイン・オブ・タイムズ 1905年11月22日)

神は、わたしたちすべての者にやってくるテストの時のために、すべての神経と霊的筋肉を強める助けとなるものをすべての人に提供してこられた。キリストの義という武具で身を固めなさいというメッセージをわたしは託されている。だからあなたが自分のなすべき分をすべて果すなら、あなたには勝利の保証がある。とこしえの岩の上に立つ恵み深い機会がすべての魂に与えられている。(手紙 32、1906年)

平和の福音を足にはく

「平和の福音の備えを足にはき」(エペソ 6:15)

主はまもなく来られる。このことを語り、祈り、信じなさい。こうすることを生活の一部としなさい。あなたは疑いや異議を唱える精神に直面しなければならないであろうが、この精神は主を信じるかたく堅固な信頼の前に屈するのである。困惑や妨げが現れたときには、感謝の賛美のうちに、魂を神の身許にまでひき上げなさい。クリスチャンの武具を身につけ、あなたの足が「平和の福音の備え」をはいているかどうか確かめなさい。(教会への証7巻 237)

至る所で思慮深く神を畏れる人が愕然とするような「罪惡の流行」の中に、わたしたちは生活している。このように流行している墮落は、とうてい筆舌につくし得ない。毎日、新しい政争、贈賄事件、詐欺行為が発覚する。また心を痛める暴動、不法、人間の苦痛に対する冷淡、さらに極悪、残忍な人命破壊の話聞く。また精神病、殺人、自殺も日々増加していく。惡魔の代理人が人々の間でますます活動を増し加え、人心を迷わし、墮落させ、身体を汚し、破壊しようとしているのをだれが疑うことができよう。……

惡の束縛から救い出してくれる力、健康と生命と平和を与える力を待ち望んでいる。かつて神のみ言葉の力を知りながら、多くの人が、神の認められていない場所に生活し、しかも神が共におられることを切望している。

世界が1900年前に必要としたもの、すなわち、キリストの啓示は今日も必要である。(ミストリー・オブ・ヒーリング 114)

世の罪と悲慘に対して福音は唯一の解毒剤である。(同上 113)

信仰の盾

「その上に、信仰のたてを手に取りなさい。それをもって、悪しき者の放つ火の矢を消すことができるであろう。」(エペソ 6:16)

深い祈りをもって研究し、実生活に適用される神のみ言葉を信じる信仰は、サタンの方から守るわたしたちの盾となり、キリストの血によってわたしたちを勝利者とする。(教会への証1巻 302)

魂が改心するとき彼らの救いはまだ完成されていない。そのとき彼らには走るべき競争があり、彼らの前にはなすべき骨の折れる苦闘がある。それは何であろうか。「信仰の戦いをりっぱに戦いぬいて」、目標をみざして走り、キリスト・イエスにおいて上に召してくださる神の賞与を得ようと努めることである。この戦いに解放はない。闘争は生涯続き、あなたが追い求めている目的、すなわち永遠の生命の価値に比例した断固とした精力をもって前進して行かなければならない。ここに大きな注意を払う必要がある。もしわたしたちが初めの確信を最後まで堅く持ち続けるなら、この世においてキリストの自己犠牲にあずかる者とされるのであるから、将来の不死の生命における恩恵すべてにあずかる者となると保証されている。このことを考えなさい。

み約束は「神は真実である。あなたがたを耐えられないような試練に会わせることはないばかりか、試練と同時に、それに耐えられるように、のがれる道も備えて下さるのである。」最後まであなたのクリスチャンとしての高潔さを保ち、神に対してつぶやいてはならない。……ここに永遠の関心がかかっていることをよく考えなさい。あなたは失望したり、自分の確信を捨てたりする余裕はないのである。主はあなたを愛しておられる。主を信頼しなさい。主イエスがあなたの唯一の希望である。永遠のための働きを確かなものにしなさい。つぶやいたり、不平を言ったり、自分自身を責めてはならない。恵みの財産をむだにしてはならない。神を信じ、神を信頼してあなたの魂を励ましなさい。(手紙 33、1895年)

わたしたちは主にあつて義と力を持つ。主に頼りなさい。そうすれば主の力によってあなたは敵の火のような激しい投げ矢を止め、勝ち得て余りある者となることができる。(教会への証4巻 213、214)

救いのかぶと

「こうして、主は義を胸当としてまとい、救いかぶとをその頭にいただき、報復の衣をまとして着物とし、熱心を外套として身を包まれた。(イザヤ 59:17)

多くの人が改心について混乱した考えを持っている。彼らは説教壇から、「あなたがたは新しく生れなければならない。」「あなたがたは新しい心を持たなければならない。」というみ言葉を度々聞いてきた。この表現は彼らを当惑させ、彼らは救いの計画を理解することができなかつたのである。

改心によって生じる変化に関してある牧師たちが教える誤った教義のゆえに多くの人が破滅へと歩んでいった。ある人々は、自分が神に受け入れられているというはっきりとした証拠を待ちわびつつ長い年月悲しみのうちに生きてきた。彼らは自分自身を世からほとんど引き離して、神の民との交わりに喜びを見出してきたが、まだあえてキリストを信じると告白しない。なぜなら、自分が神の子であると口に出すのは出すぎていると恐れるからである。彼らは自分たちが信じるようにと導かれてきた特別の変化が改心と結びつくのを待っている。

この人々の中のある人々は、しばらく後に、自分たちが神に受け入れられた証拠を受け取り、自分自身を神の民と同一視するよう導かれて、この時を自分の改心の時と定める。しかし……彼らはその時よりも前に神の家族の中に養子とされたのである。彼らが罪にうんざりして、世的な楽しみに対する願望を失い、熱心に神を求めようと決心したとき、神は彼らを受け入れて下さったのである。しかし救いの計画の単純さを理解するのに失敗して、彼らは、自分がはじめに神に立ち帰った時に、神が自分を受け入れて下さったことを信じるだけで、自分たちが主張することのできる多くの特権と祝福を失っている。

他の人々はもっと危険な過ちに陥っている。彼らは衝動に支配されている。彼らの共感をかきたてられ、感情のほとぼしりを自分たちが神に受け入れられ、改心した証拠と見なす。しかし彼らの人生の原則は変わっていない。心に恵みの真の働きがなされているという証拠は感情の中に見出されるのではなく、生活の中で見出されるべきである。(伝道 286, 287)

御霊の剣

「また、救いのかぶとをかぶり、御霊の剣、すなわち、神の言を取りなさい。」(エペソ 6:17)

わたしたちは、現代の青年を取り囲む危険と誘惑が少ないものでも小さいものでもないことを知っている。……わたしたちは、悪に抵抗するために絶えず油断をしないで祈る必要のある時代に生きている。神の尊いみ言葉が、天の王なるお方に忠誠をつくす青年の基準である。彼らに聖書を研究させ、記憶するために次々と聖句を与え、主が言われたことについての知識を自分のものとさせなさい。……そして試練の時には、青年が自分の前に神のみ言葉を広げるようにさせ、へりくだった心で、信仰をもって、主の道を見出すための知恵と主の道に歩む力を主に求めさせなさい。……

若い人々に、ほんのわずかでも義務と献身から魂をそらす危険のあるすべての習慣に対して戦いを始めさせなさい。祈りのための時間を定めさせ、その時間を決してなおざりにすることなく、可能な限り守らせなさい。もし彼らが、キリストとの交わりを告白する前にふけていたような悪い習慣をもって戦いに出ていくなれば、すぐにサタンの方の餌食になってしまう。しかし神のみ言葉で武装し、これを心と思ひの中で大切にすれば、神と人との敵のどのような攻撃にも害を受けない。……

神の御名のうちに、真理と義のためのあなたの旗印、一神の戒めとイエスの信仰を高く掲げなさい。あなたには今、真理の完全な武具、すなわち決して鈍ることのない刃を持ち、罪と不義をつきぬけて道を切り開く御霊の剣が必要である。(ユース・インストラクター 1887年8月3日)

若い人々に、真理の御言を助言者として受け入れさせ、「御霊の剣」を用いるのに熟練した者にならせなさい。サタンは賢い戦略家であるが、へりくだって献身したイエス・キリストの兵士は、サタンに打ち勝つことができる。(レヴィ・アード・ハルト 1888年2月28日)

キリストの内に力がある

「わたしの保護にたよって、わたしと和らぎをなせ、わたしと和らぎをなせ。」(イザヤ 27:5)

敵は、キリストに学ぶへりくだった者、主の前に信心深く歩む者を打ち負かすことはできない。キリストは自ら、悪者の激しい攻撃からの避難所、隠れ家として介入される。「敵が洪水のおしよせる時、主の御霊はその敵に対して旗を掲げる。」……

サタンは、ヨブを試みるのを許されたように、自信過剰のペテロを試みることを許された。しかしその働きがなされたとき、サタンはしりぞかなければならなかった。サタンが自分の方法を行い続けるのを許されていたなら、ペテロに希望はなかったであろう。ペテロは完全に信仰の破船にあっていただろう。しかし敵は自分に指定された領域を越えては、髪の毛一筋といえども越えてはならなかった。サタンの全勢力の中に、神からくる知恵に単純な確信をもって信頼する魂を無能にする力はない。(ユス・インストラクター 1898年12月15日)

キリストはわたしたちの力のやぐらであり、サタンはへりくだった気持ちで、神と共に歩む魂を支配する力を持つことはできない。「わたしの保護にたよって、わたしと和らぎをなせ、わたしと和らぎをなせ」というみ約束がある。キリストの内には誘惑されているあらゆる魂のための完全で申し分のない助けがある。危険があらゆる道を取り囲んでいるが、全天が守りについているので、だれも負いきれる以上に試みを受けることはない。ある人は絶えず抑える必要のある品性の強い特徴を持っている。もし神の御霊の支配下にいつづけるなら、このような特徴は祝福となるが、そうでないなら、その特徴はのろいであることを証明する。……もしわたしたちが、私心なくみ働きに自分自身を捧げ、わずかといえども原則からそれずにいるなら、主はわたしたちをとこしえの御腕に抱き、ご自分が力強い助け手であることを証明される。わたしたちがイエスを信頼できるお方として見上げるなら、このお方はどのような危急の時にもわたしたちを決して見捨てたりはなさらない。(同上 1898年12月22日)

キリストによって勝利がある

「しかし感謝すべきことには、神はわたしたちの主イエス・キリストによって、わたしたちに勝利を賜ったのである。」(コリント第一 15:57)

キリストは、人がご自分のみ名によって勝利することができるようにと、人にご自分の神聖な恵みと力を与えるために、御父から力を受けておられる。……

すべての者は個々に、キリストが打ち勝たれた誘惑にさらされるが、偉大な征服者の力強い御名のうちに、力は彼らのために備えられている。だからすべての者は自分自身のために、個人的に打ち勝たなければならない。(ビュー・アソド・ヘルド 1874年9月8日)

キリストは子供たちや青年のあらゆる試練や悲しみを知っておられる。ご自身がかつてちょうどあなたの年代だったからである。あなたにくる誘惑や試練はこのお方にもきたのであり、あなたに来る悲しみもこのお方に来たのである。しかしキリストは決して誘惑に打ち負かされなかった。このお方の生涯には純潔で気高いものしかなかった。このお方はあなたの助け手であり、贖い主であられる。(エース・インストラクター 1901年8月22日)

このお方の神聖な愛と同情心は、敵のわなにかかって、最も望みのない状態になった者に、まず向けられる。このお方はご自身の血で、人類釈放の証書に署名なされた。

イエスはそれほどの価を払って贖った者が、敵の誘惑にもあそばれるのをお望みにならない。このお方はわたしたちが負けて滅びるのをお望みにならない。ししの穴でライオンの口をふさぎ、忠実な証人と共に燃ゆる炎の中を歩まれたキリストは、それと同じように喜んで、わたしたちの性質のすべての思いを征服してくださるのである。今日、彼はあわれみの座に立って、その助けを求める人々の祈りを神にささげておられる。キリストは悔いて泣く者をひとりとして、退けるようなことをなさない。……イエスは、避け所を求めて来る魂を告発と口論から、救ってくださる。人間も悪天使もこれらの魂を非難することができない。キリストは神であり、また人であるご自分の性質に、彼らを結合させてくださる。(ミストリー・オブ・ヒーリング 60, 61)

意志とは決定する力

「あなたがたは、この世と妥協してはならない。むしろ、心を新たにすることによって、造りかえられ、何が神の御旨であるか、何が善であって、神に喜ばれ、かつ全きことであるかを、わきまえ知るべきである。」(ローマ 12:2)

反抗心以外にあなたを神から引き離すことのできるものはない。(ユース・インストラクター- 1893年3月9日)

意志は人の性質の中にある支配する力である。もし意志が正しく設定されていれば、他の性質はその支配のもとに従う。意志は嗜好や傾向ではなく、選び、また決定する力、王のような力であり、人の子らの内で神への服従かあるいは不服従へと働く力である。

あなたは意志の真の力を理解しないかぎり、絶えず危機の中にいる。あなたはすべてのことを信じ約束することはできるが、あなたの約束と信仰は、意志を正しい側におくまで勘定に入ることにはない。もしあなたが自分の意志の力をもって信仰の戦いを戦うなら、あなたが勝利者となることに疑いはない。

あなたの分はあなたの意志をキリストの側におくことである。あなたが自分の意志をこのお方の意志に明け渡すなら、このお方はすぐにあなたをご自分のものとし、ご自分の喜ばれることを成し遂げ、行うために、あなたの内で働き始める。あなたの性質はこのお方の御霊の支配下におかれ、あなたの思想さえもこのお方に従う。あなたは自分の望み通りに自分の衝動や感情を抑制できなくても、意志を支配することはでき、このようにして完全な変化があなたの生涯中で行われる。あなたが自分の意志をキリストに明け渡すとき、あなたの生涯はキリストと共に神の内に隠れる。それはあらゆる支配や権威を越えた力と結びついている。あなたは自分を神の力強さにしっかりと結びつける力を神からいただいており、新しい生涯、信仰の生涯でさえ、あなたに可能である。

あなたは、神の御霊と協力しつつ、自分の意志をキリストの側におかないかぎり、自分自身を高めるのに成功することは決してない。自分ができないと感じてはならない。「わたしはできる、わたしはそうする」と言いなさい。そうすれば、神は、あらゆる断固とした努力でご自分の聖霊があなたを助けると誓っておられる。(クリスチャンの節制と聖書の衛生 147, 148)

最初の勝利は家庭の中で

「そこで、わたしの子よ。あなたはキリスト・イエスにある恵みによって、強くなりなさい。……キリスト・イエスの良い兵卒として、わたしと苦しみを共にしてほしい。」
(テモテ第二 2:1-3)

神のみ働きの成功に関連するすべてのことの中で、最初の勝利は家庭生活の中で得るべきである。(教会への証 6 卷 354)

人はみな家庭や学校における訓練のほかに、人生のきびしい訓練に会わなければならない。これに賢明に対処するにはどうすればよいかということを少年少女たちにはつきり教えなければならない。神がわれわれを愛し、われわれの幸福のために働いておられるということや、人類が常に神の律法に服従していたなら、苦難というものはこの世になかったということは事実である。しかしこの世において罪の結果として、どんな人の一生にも苦難や悩みや重荷があるということもまた事実である。こうした悩みや重荷に勇敢に対処することを子供たちに教えておけば、彼らのために一生の間、益となることをしてやったことになる。子供たちに同情はしなければならないが、その同情は彼らに自分をあわれむような情を起こさせるようなものであってはならない。子供たちにとって必要なのは、彼らを弱くするものではなくて、激励し強めるものでなければならない。

この世界は練兵場ではなくて戦場であるということ子供たちに教えなければならない。だれでもりつぱな兵士のように苦難に耐えなければならない。われわれは心を強くし雄々しくふるまわなければならない。この世において認められたり報賞を受けたりしなくても、自ら進んで重荷を負い、困難な立場を引き受け、しなければならない働きをなすことに品性の真の価値が表わされるのだということ子供たちに教えなければならない。(教育 347, 348)

青年に、自分独自の道をとることを許すことほど家族にとって大きなのろいとなるものはない。(サインズ・オブ・タイムズ 1888 年 4 月 6 日)

一度誘惑に抵抗すると二度目はもっと強く抵抗する力を与えられる。自己に打ち勝った一つ一つの新しい勝利は、より気高く高い勝利への道を平らにする。一つ一つの勝利は永遠の生命のために播かれた種である。(教会への証 5 卷 120)

堅く立って動かされず

「だから、愛する兄弟たちよ。堅く立って動かされず、いつも全力を注いで主のわざに励みなさい。主にあつては、あなたがたの労苦がむだになることはない、あなたがたは知っているからである。」(コリント第一 15:58)

神の名誉を守って立ち、どのような価を払っても真理の純粋さを維持する人々は、わたしたちの救い主が誘惑の荒野で会われたように、多くの試練に会う。屈する性質、すなわち悪をとがめる勇気がなく、どのような圧力に対しても正義を守って立つために自分たちの影響力が必要とされている時に沈黙を守る人々は、多くの心痛をさけ、多くの困難を逃れるかもしれないが、ついに自分自身の魂ではなかったとしても、非常に豊かな報いを失う。

神と一致し、信仰を通して神の内におり、悪に抵抗する力を受けて、正義を守って立つ人々は、たびたび厳しい試練に会い、しばしばほとんど一人で耐えなければならないであろう。しかし、彼らが神を自分の頼るお方とするなら、勝利は彼らのものである。神の恵みは彼らの力となり、彼らの道德観は鋭くはつきりとし、敏感になる。彼らの道德力は悪い感化に逆らって動じない。彼らの高潔さはモーセのように最も純潔な品性の高潔さである。(ビュー・アソド・ハルド 1873年7月29日)

神のみ業をしりごみしないで行うには道德上の勇気が必要である。これを行う人は自己愛や利己的な考え、野心、安楽さを愛し、十字架を避けようと望む気持ちに余地を与えない。……わたしたちは神のみ声に従うのだろうか、それとも悪者の安心させる声に聞き従って、永遠の現実の直前に致命的なまどろみへと揺られるのだろうか。(同上 1893年2月7日)

わたしたちの救い主は若い人々を救いたいと切望しておられる。……このお方は彼らの頭に冠をのせ、天の宮廷中に響きわたる勝利の歌声の中で、神と小羊に対してわきあがってくるほまれと栄光と権威に、彼らの幸福な声に加わるのを聞こうと待っておられる。(同上 1884年8月26日)

光の中を歩む

「あなたの光とまことを送ってわたしを導き、あなたの聖なる山と、あなたの住まわれる所にわたしをいらせてください。」(詩篇 43:3)

危険な今の時代に、わたしたちは、天があわれみのうちに送ってくださる光を拒まないよう非常に気をつけるべきである。なぜならこの光によってわたしたちは敵の企みを見分けなければならないからである。わたしたちは、聖なる事と一般の事、また永遠の事と現世の事を区別するために、天からの光が毎時間必要である。もしわたしたち自身にまかされてしまうなら、わたしたちは一步毎につまずき、世に心が傾いて、克己を避け、絶え間ない用心深さと祈りの必要を感じなくなり、サタンのとりになって、彼の思いのままになるであろう。ある人々は今日この状態にある。神が自分たちに送られた光を拒むことによって、彼らは自分が何につまずいているか分らないのである。

最終的に小羊の生命の書にその名が記されているのが見いだされる人々は、みな主の戦いを雄々しく戦う。彼らは誘惑やあらゆる悪いことを見分けて、しりぞけるために最高の熱心さをもって働く。彼らは、神の御目が自分たちに注がれており、最も厳格な忠誠が要求されていると感じる。彼らが忠実な番人として通路を閉じ続けるとき、サタンは彼らのただ中で死の働きをするために光の天使に変装して彼らを欺くことはできない。

神の御座を取り巻いている白い衣を着た人々は、神を愛するよりも快樂を愛した群れで構成されてはおらず、胸中に反対の波を受けるよりは流れにただよう方を選ぶ人々で構成されてもいない。今の時代に普及している精神や影響から離れて純潔で墮落していないすべての人には厳しい戦いがあるであろう。彼らは大きな患難を通り、小羊の血で品性の衣を洗い白くするのである。この人々は栄光の王国で勝利の歌を歌う。(レビュー・アンド・ヘラルド 1885年10月16日)

堅く守る

「わたしは、すぐに来る。あなたの冠がだれにも奪われないように、自分の持っているものを堅く守っていなさい。」(黙示録 3:11)

人の状況を永遠に定める決定が一瞬のうちになされることがある。……しかし誘惑に一瞬、身をゆだねたり、軽率に見逃してしまったことを元通りにするのは生涯をかけての働きになるということを覚えていなさい。……

あなたは一瞬の行為で自分自身をサタンの権力のもとに置くことができるが、自分の足かせをこわし、もっと気高く聖なる生涯を追い求めるには意志を一瞬の間働かせる以上のことを要求される。目的を作り上げ、働きを始めることはできるが、その目的を成し遂げるには骨折り、時間、忍耐、根気強さ、そして犠牲が要求される。光の炎が燃え上がる中で神からわざとぎ迷い離れる人は、元に戻ろうと思うとき、いばらやとげが自分の道に生えてしまっていることに気づくが、自分が傷ついて血の流れている足で長い旅をしなければならないとしても驚いたり、失望してはならない。より良い状態から人が墮落したという最も恐ろしく、また最も恐怖を覚えさせる証拠は、元通りになるのに大変な犠牲を要するという事実である。戻る道は一步一步、毎時間大変な戦いをすることによってのみ前進することができる。……

天国を勝ち取る人々は自分たちの最も気高い努力を尽くし、すべてに辛抱強く取り組む。それによって骨折りの実を収穫することができるためである。誘惑という試練に耐えて、キリストの愛のゆえに、人々の前でキリストをこのようにして告白し、キリストが御父と聖天使たちの前で自分たちを受け入れてくださるようにと忍耐強く待ちながら、世とその名誉や称賛をあきらめることにより良心を守っている人々に対して、バラダイスの門を広く開け放つ手がある。(ノットブック・リフレット1、No. 24)

良心を敏感に保ちなさい。それは人がかつて話したことがないほど最も細い声のささやきをあなたが聞きとることができるためである。(原稿 121、1891年)

アダムの失敗と同様に完全なキリストの勝利

「すなわち、ひとりの人の不従順によって、多くの人が罪人とされたと同じように、ひとりの従順によって、多くの人が義人とされるのである。」(ローマ 5:19)

キリストは第二のアダムと呼ばれている。純潔と聖潔の中で神と結びつき、神に愛されて、キリストは、第一のアダムが始めたところから始められた。このお方は自ら進んで、アダムが墮落したそのところを過ぎ、アダムの失敗を贖われた。

しかし第一のアダムはあらゆる点においてキリストよりもはるかに有利な立場にあった。エデンで人のためになされたすばらしい摂理は、その人を愛した神によってなされたのであった。自然界にあるすべてのものは純潔で汚れていなかった。……彼ら〔アダムとエバ〕と彼らの創造主の間にはどのような影もさしてはいなかった。二人は神を自分たちの情け深い御父として知っており、彼らの意志はあらゆる点において神のみ旨に一致していた。……

しかしサタンがエデンの住人の所に来て、神の知恵に対する疑いをほめかした。サタンは二人の御父であり統治者であられるお方が彼らの忠誠を試すためにこのお方が知識の木からとって食べることを禁じたからといって、このお方を利己的だと責めた。……

キリストはアダムよりも百倍も厳しい方法で、これ以上ないほど、あらゆる方法を使った状況のもとで誘惑を受けられた。欺瞞者は光の天使のように自分を見せかけたが、キリストは彼の誘惑に耐えて、アダムの不名誉な墮落を贖い、世を救われた。……

ご自分の人間としての特質の中で、キリストはご自分の神性の純潔さを維持された。このお方は神の律法を生活の中で実行し、全天とサタンと墮落したアダムの息子、娘たち全員に、ご自分の恵みによって人類が神の律法を守ることができるとを表しつつ、罪の世にあって神の律法に栄誉を帰した。キリストは悔い改めた信じる魂にご自分の神性、ご自身のかたちを分け与えるために来られた。(ユース・インストラクター 1898年6月2日)

キリストの勝利は、アダムの失敗が完全であったように完全であった。わたしたちも誘惑にこのように抵抗し、サタンを自分から離れさせることができる。(原稿 15、1908年)

キリストは世に勝たれた

「これらのことをあなたがたに話したのは、わたしにあつて平安を得るためである。あなたがたは、この世ではなやみがある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている。」(ヨハネ 16:33)

キリストの屈辱の最後の歩みが踏み出されようとしていた時に、最も深い悲しみが主の魂をとりかこもうとしていた時に、主は弟子たちに「この世の君が来る……だが、彼はわたしに対して、なんの力もない。」「この世の君がさばかれる。」「今こそこの世の君は追い出されるであろう」と言われた。預言の目をもって、キリストはご自分の最後の各時代の犬争闘に起こる場面をたどられた。キリストは、ご自分が「すべてが終った」と叫ばれる時に、全天が勝利することを知っておられた。主の耳は、天の宮廷における遠くの音楽と勝利の叫びをとらえた。その時サタンの王国では葬式の鐘が鳴らされ、一方キリストの御名は宇宙の世界から世界へと告げ知らされることを、主はご存じであった。

キリストは、弟子たちが求めたり思ったりすることができるよりもっと多くのことを彼らのためにすることがおできになることを喜ばれた。世界がつくられる前から神のご命令が出されていることをご存じだったので、キリストは、確信をもって語られた。キリストは、真理が、聖霊の全知全能によって武装されて悪との戦いに勝利し、キリストに従う者たちの上に血に染まった旗が高らかにひるがえることを知っておられた。信頼している弟子たちの一生は、キリストの一生と同じに絶え間ない勝利の連続となり、それはこの地上では勝利とは見えないが、大いなる来世においてその勝利がみとめられるということ、主は知っておられた。……

「あなたがたは、この世ではなやみがある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている」(ヨハネ 16:33)。キリストは衰えも、落胆もされなかった。キリストに従う者たちはこれと同じ持久力のある信仰をあらわすのである。……不可能に見えることが彼らの道をさまたげても、キリストの恩恵によって彼らは前進するのである。……彼らは、悪に抵抗する力、この世も、死も、よみも征服することのできない力、キリストが勝利されたように彼らにも勝利させる力を与えられるのである。(各時代の希望下巻 169, 170)

サタンは、力あるお方の御名のうちに避け所を見出す最も弱い魂の前で震え、逃げ去るのである。(原稿 15、1908 年)

どの時代のクリスチャンも勝利した

「なぜなら、すべて神から生れた者は、世に勝つからである。そして、わたしたちの信仰こそ、世に勝たしめた勝利の力である。」(ヨハネ第一 5:4)

使徒たちは確かな土台、すなわちとこしえの岩の上に築いた。彼らはこの土台に、世界から切り出された石を運んできた。建設者たちの働きに障害がないわけではなかった。キリストの敵たちの反対により、彼らの働きは非常に困難になった。彼らは偽の土台の上に築こうとしている者たちの偏狭、偏見、憎悪と闘わなければならなかった。……

王も為政者も、祭司もつかさたちも、神の宮を破壊しようとした。しかし忠実な人々は、投獄され、拷問にかけられ、死刑にされても働きを進展させた。建物は次第に美しくなり均衡がとれてきた。……

キリスト教会の設立のあとに、幾世紀にもわたる激しい迫害の時代が続いたが、神の宮の建設の仕事を生命そのものよりも大事だと思っている人たちに欠けることはなかった。……

義の敵は、神の建設者たちにゆだねられた仕事をやめさせるための努力に骨身を惜しまなかった。しかし神は、「ご自分のことをあかししないでおられたわけではない」(使徒行伝 14:17)。ひとたび聖徒に伝えられた信仰をりっぱに守る働き人たちが起こされた。歴史はこれらの人々の不屈の精神と英雄的な行為を記録にとどめている。使徒たちと同じように、彼らの中にもその持ち場にあつて倒れた者が大勢いたが、宮の建設は着々と進んだ。働き人は殺されたが、働きは進展した。ワルド派(ワルデンセス)、ジョン・ウィクリフ、フス、ヒエロニムス、マルチン・ルター、ツウィングリ、克蘭マー、ラチマー、ノックス、ユグノー、ジョン・ウェスレーとチャールズ・ウェスレー、その他多くの人たちが、永遠に持ちこたえる材料を土台のもとにもってきた。……幾世紀にわたる過去を振り返ってみるとき、われわれはそこに、神の宮を作り上げている生きた石が、誤謬と迷信と暗黒をつらぬいて光り輝いているのを見る。これらの尊い宝石は、永遠にわたって、ますます光彩を増して輝き、神の真理の力をあかしするであろう。(患難から栄光へ下巻 304～306)

パウロの勝利の叫び

「だが、キリストの愛からわたしたちを離れさせるのか。患難か、苦悩か、迫害か、飢えか、裸か、危難か、剣か。……しかし、わたしたちを愛して下さったかたによって、わたしたちは、これらすべての事において勝ち得て余りがある。」(ローマ 8:35～37)

パウロは真理のために苦しんだが、彼の唇からつぶやきは聞こえていない。自分の骨折りと世話と犠牲の生涯を振りかえって、パウロは「わたしは思う。今のこの時の苦しみは、やがてわたしたちに現されようとする栄光に比べると、言うに足りない」と言う。神の忠実な僕からの勝利の叫びが次のようにわたしたちの時代にまで聞こえてくる。「だが、キリストの愛からわたしたちを離れさせるのか。患難か、苦悩か、迫害か、飢えか、裸か、危難か、剣か。……しかし、わたしたちを愛して下さったかたによって、わたしたちは、これらすべての事において勝ち得て余りがある。わたしは確信する。死も生も、天使も支配者も、現在のものも将来のものも、力あるものも、高いものも深いものも、その他どんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスにおける神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのである。」

パウロはついにローマの牢獄に閉じ込められたけれども、すなわち天からの光と空気から遠ざけられ、福音における活発な働きをさえぎられ、今にも死を宣告されようとしていたが、疑惑や失望に陥ることはなかった。陰気な地下牢から流れてきた彼の死にのぞんだ証は後に続くすべての時代の聖徒や殉教者の心に崇高な信仰と勇気を満たした。彼の言葉は聖化……という結果を適切に表わしている。……「わたしは、すでに自身を犠牲としてささげている。わたしが世を去るべき時はきた。わたしは戦いをりっぱに戦いぬぎ、走るべき行程を走りつくし、信仰を守りとおした。今や、義の冠がわたしを待っているばかりである。かの日には、公平な審判者である主が、それを授けて下さるであろう。わたしばかりではなく、主の出現を心から待ち望んでいたすべての人にも授けて下さるであろう。」(清められた生涯 68, 69)

わたしたちの闘争の傷や傷跡が、勝利の記念品としてパウロにあったようにわたしたちにもあるであろう。(ヒストリカル・スケッチ 130)

エレミヤの感謝の宣言

「主のいつくしみは絶えることがなく、そのあわれみは尽きることがない。これは朝ごとに新しく、あなたの真実は大きい。」(哀歌 3:22, 23)

忠実な預言者エレミヤは日ごとに耐える力が与えられた。彼は信仰をもって言った。「主は強い勇士のようにわたしと共におられる。それゆえ、わたしに迫りくる者はつまずき、わたしに打ち勝つことはできない。彼らは、なし遂げることができなくて、大いに恥をかく。その恥は、いつまでも忘れられることはない」。「主に向かって歌い、主をほめたたえよ。主は貧しい者の命を、悪人の手から救われたからである」。エレミヤは青年時代、また働きの後年において経験したことによって、「人の道は自身によるのではなく、歩む人が、その歩みを自分で決めることができないことを」学んだ。彼は「主よ、わたしを懲らしてください。正しい道にしたがって、怒らずに懲らしてください。さもないと、わたしは無に帰してしまうでしょう」と祈ることを学んだ。

彼が悩みと悲しみとの杯を飲むように召され、悲惨のうちに「わが栄えはうせ去り、わたしが主に望むところのものもうせ去った」と言う誘惑に遭ったときに、彼は、彼のために伸べられた神の摂理のみ手を思い出して、勝ち誇って叫んだ。「主のいつくしみは絶えることがなく、そのあわれみは尽きることがない。これは朝ごとに新しく、あなたの真実は大きい。」(国と指導者下巻 42)

クリスチャンであると公言する多くの人々が日光のもとで喜ぶことができるときに、あまりにも長く人生の暗い側にたたずみ、喜ぶべき時に愚痴をこぼす。彼らは自分たちが楽しんでいる豊かな祝福に対して感謝をささげるべき時に試練について話す。彼らは不愉快なことに目をとめ、失望を胸に秘め、悲しんでため息をつき、その結果自分の祝福を数えて、それが非常に多いことが分って自分たちの悩みの種を口に出すのを忘れるはずの時に憂鬱で悲しくなるのである。もしこの人々が自分になされた好意を日々記していれば、受けた親切の尊い記憶を心にたくわえていれば、あらゆる良いものの与え主に感謝と賛美を捧げる機会をどれほどたくさん見出すことであろうか。(サイン・オブ・タイム 1885年2月12日)

ヨブは自分の贖い主が 生きておられることを知っていた

「わたしは知る、わたしをあがなう者は生きておられる、後の日に彼は必ず地の上に立たれる。わたしの皮がこのように滅ぼされたのち、わたしは自分の肉にあって神を見るであろう。」(ヨブ 19:25, 26 英語訳)

だれでも時には、激しい失望と絶望に陥る時があつて、心は悲しみに満たされ、神が今でも地上の子供たちの慈悲深い保護者であられることを信じ難い日々があるものである。心は悩みにさいなまれて、生きているよりは死んだほうがましだと思われる時がある。そうした時に多くの者は、神に対する信頼を失って、疑いと不信の奴隷になるのである。そのような時に、もしわれわれが霊的洞察力をもって、神の摂理の意味を悟ることができるなら、天使たちがわれわれを助けて、われわれの足を永遠の山よりも堅い土台の上におこうと努めているのを見ることができるのである。そして、新しい信仰と新しい生命が芽吹くようになる。

忠実なヨブは、苦難と暗黒の時にも、次のように言った。……

「わたしの魂は生命よりも死を……選ぶ。わたしは命をいとう。わたしは長く生きることを望まない。わたしに構わないでください。わたしの日はむなしのだから。」

しかしヨブは人生にうみ疲れたと言つても、死ぬことを許されなかった。ヨブには将来の可能性が示され、希望の言葉が与えられたのである。

「あなたは……堅く立って、恐れることはない。あなたは苦しみを忘れ、あなたのこれを覚えることは、流れ去った水のようにになる。」……

ヨブは失望と落胆のどん底から、神のあわれみと救いの力に絶対的に信頼するという高尚な境地に昇った。彼は勝ち誇つて言った。

「見よ、神がわたしを殺しても、わたしは神を待ち望む。」(国と指導者上巻 130～132)

バプテスマのヨハネよりも大きい人物はいない

「あなたがたによく言うておく。女の産んだ者の中で、バプテスマのヨハネより大きい人物は起らなかった。」(マタイ 11:11)

ヨルダン川のほとりにはえていて、風のまにまにゆらぐ背の高い葦は、バプテスマのヨハネの使命を批判し、非難するラビたちをあらわすのにふさわしかった。彼らは民衆の世論という風であちらこちらへゆれた。彼らはへりくだってバプテスマのヨハネの鋭いことばを受け入れようとはしなかったが、民衆を恐れたので、あえて彼の働きに公然と反対しようとしなかった。しかし神の使者は、こんな臆病な精神ではなかった。キリストのまわりに集まった群衆はヨハネの働きの証人だった。彼らはヨハネが恐れることなく罪を責めるのを聞いた。自らを義とするパリサイ人にも、祭司のサドカイ人にも、ヘロデ王とその廷臣にも、つかさたちや兵士たちにも、取税人や百姓にも、ヨハネは、同じように率直に語った。彼は人の称賛や偏見という風に動かされる揺れる葦ではなかった。牢獄の中にあっても、神に対する彼の忠誠心と義への熱意は、荒野で神のみことばを説いていた時と同じに変わらなかった。主義に対する彼の忠実さは岩のように固かった。

……

ヨハネが生れる前に、天使は、ザカリヤへのお告げの中で、「彼は主のみまえに大いなる者となり」と言った(ルカ 1:15)。天の神の評価で、大いなるものとは何だろうか。世の人々が大いなるものとみなしているものではない。……神がとうとばれるのは道徳的価値である。愛と純潔とは、神が最もとうとばれる特性である。ヨハネがサンヒドリンの使者たちの前で、人々の前で、自分の弟子たちの前で、自分自身の誉を求めようとしないで、イエスを約束のお方としてすべての人にさし示した時、彼は、イエスの目に大いなる者となった。キリストの働きにおける彼の無私のよろこびは、人間のうちにあらわされた最高級の気高さをあらわしている。(各時代の希望上巻 271～273)

誠実によって

「だれに対しても悪をもって悪に報いず、すべての人に対して善を圖りなさい。」(ローマ 12:17)

あらゆる仕事の取引において、クリスチャンはちょうど自分の兄弟にそうあってほしいと望むような公正な人である。その行動方針は基礎となっている原則に導かれている。彼はたくらむ者ではないので、隠すことは何もなく、うわべを飾ることもない。彼は批判され、試みられるかもしれないが、その確固たる高潔さは純金のように輝き出る。彼は交わるすべての人にとって祝福である。なぜなら彼の言葉は信頼できるからである。彼は隣人を利用せず、すべての人にとって友であり、恩恵を施す人であって、彼の同胞は彼の勧告を信用する。……真に誠実な人は自分の財布をいっぱいにするために人の弱味や能力のないことを利用しないで、自分の売る品物に対して公正な価格を受け入れる。売った品物に欠陥があれば、兄弟や隣人にそれを正直に言う。そうすることによって、自分の金銭上の利益を損う働きをすることになるとしても。

生涯のささいなことすべてに対して、誠実の最も厳格な原則を維持すべきである。この原則はこの世を支配している原則ではない。なぜならこの世は欺瞞者であり、うそつき、圧制者であるサタンが主人であり、彼の臣下は彼を見習いサタンの目的を行うからである。しかしクリスチャンは違う主人のもとで仕えるので彼らの行動は神にあつてなされ、あらゆる利己的な利益にかまわずなされなければならない。仕事上の取引における完全な公正からはずれることは、ある人々の判断ではささいなことに見えるかもしれないが、わたしたちの救い主はそうには見なされなかった。……

ある人は外見上感じが良くなって、多くの点で欠点があるとしても、彼が非常に誠実であるという評判があるなら、その人は尊敬される。……真理を堅く固守する人はすべての人の信頼を得る。信仰の兄弟がその人を信頼するだけでなく、未信者であってもその人をほまれある人として認めざるを得ないであろう。(手紙 3、1878年)

正直をもって

「イスラエルの残りの者は不義を行わず、偽りを言わず、その口には欺きの舌を見ない。それゆえ、彼らは食を得て伏し、彼らをおびやかす者はいない。」(ゼパニヤ 3:13)

正直と高潔は神の特質であり、この資質を持っている人は無敵の力を持つ。
(原稿 139、1898 年)

決してうそをついてはならない。教訓や模範で決して事実を反することを言っ
てはならない。……公正であって、そこからそれないようにしなさい。たとえわ
ずかな言いのがれであって許してはならない。(同上 126、1897 年)

救い主はあらゆる欺瞞を深く軽蔑しておられる。アナニヤとサツピラがこれ
をあらわした時、厳しい罰が与えられた。(ビュー・アソド・ハルト 1905 年 4 月 13 日)

偽ることは神にとって忌まわしい行為である。「汚れた者や、忌むべきこと
及び偽りを行う者は」聖なる都に「決してはいれない」と神は言われる。真実を語
るのにいいかげんであったり、あいまいであってはいけない。真実を語ることが
生活の一部となるようにしよう。真実をもてあそび、自分の都合の良いように当て
はめて偽ることは、信仰の破滅である。……事実でないことを語る人は、自分の
魂を安売りするのである。彼のうそは、とっさの場合の役に立つように見えるか
もしれない。こうして、彼は正当なやり方では望めないような商売の発展を期待
するかもしれない。しかし最後には、だれも信頼できなくなる。自分がうそつき
であるために、ほかの人の言葉を信用できないのである。(患難から栄光へ上巻
77)

だれも自分が正直であると誇ることはできない。なぜなら、打ち勝つまで
は正直が何であるか分らないからである。その人が疑わしい方法で財産を手に入
れる誘惑という火のような厳しい試練を通るまで、彼の正直と誠実さについての
力強さを知ることは誰もできない。(手紙 110、1897 年)

その心が神に由来する愛に満たされている人は自分の生涯に場所を見つけよう
として自己を高めたり、不正直であることを許さない。御霊によって「新しく生
まれた」人は日々の生活にキリストをあらわす。彼は取引きすべてに正直であり、
ずるかったり、悪がしこい不正な仕事をしない。その人の生涯にあらわれる良い
実はその人の心の状態をあかすする。(ビュー・アソド・ハルト 1905 年 5 月 4 日)

へりくだって

「人の高ぶりはその人を低くし、心にへりくだる者は誉を得る。」(箴言 29:23)

多くの人が自尊心で自分を高く掲げ、自分の力を鼻にかけるが、神はその人を一瞬のうちに無くしてしまうことがおできになる。人が自分に与えられたタラントで自分に栄光を帰すよう導くのがサタンの仕事である。神が働かれる人はみな、生き、常に存在し、常に活動しておられる神こそ至高者であられ、自分に用いるためのタラント—考え出す知性、神の御座の椅子となるべき心、自分と接するすべての人に祝福となってあふれ出る愛情、聖霊が罪と義と裁きを悟らせることのできる良心—を貸し与えてくださっていることを学ばなければならない。(ユース・インストラクター 1905年3月5日)

自尊心、無知、愚かな考えは絶えず共に存在する。主は主の民であると公言する人々の中にあらわされる自尊心を不快に思われる。(教会への証 4巻 634)

両親がた……あなた方の子供たちに謙遜を教えるよりは自尊心を教える方が簡単である。(同上 1巻 134)

榮譽の前に謙遜がある。人の前で高い地位を占めさせるために、天は……神の前に低い地位を占めている働き人をお選びになる。最も子供のような弟子が、神のための働きにおいて最も有能な者である。天使たちは、自分がえらくならうとする者ではなく、魂を救おうとする者と協力することができる。……彼はキリストとのまじわりから出て行って、罪のうちに滅びつつある人々のために働く。彼は使命のために油をそそがれる。そして学問があつて、知的に賢明な人たちの多くが失敗するときに、彼は成功するのである。……

幼な子の単純さと、私心のなさ、信じきった愛情は、天の神がとうとばれる特性である。これこそ真の偉大さの特徴である。(各時代の希望中巻 213)

ソロモンは、「わたしは小さい子供であつて、出入りすることを知りません」と告白したときほどに富み、豊かで、賢明で、真に偉大だつたことはなかつたのである。(国と指導者上巻 6)

惜しみなく

「施し散らして、なお富を増す人があり、与えるべきものを惜しんで、かえって貧しくなる者がある。物惜しみしない者は富み、人を潤す者は自分も潤される。」(箴言 11:24, 25)

人間に財産をお恵みになるのは神であって、これをなさるのは、彼らがみ事業進展のために尽くすことができるためである。神は日光や雨を送ってくださる。また、植物を豊かに成長させてくださる。神は健康を与えてくださり、目的を果たす能力を与えてくださる。祝福はすべて神の恵み深いみ手から与えられる。その代わりに神は、男にも女にも財産の一部を什一及びその他の献金、すなわち感謝のささげもの、任意のささげもの、また罪のためのささげものとして神に返し、感謝の気持ちを現すよう求められる。神の定めたこの計画にしたがって、あらゆる所得の十分の一や惜しみないささげものなど、資産が倉に蓄えられるならば、主のみわざはゆたかに進展するのである。

しかし人間の心はわがままからかたくなになり、アナニヤやサツピラのように神からの要求を満たしているふりをしながら、財産の一部を隠したい誘惑にかられる。多くの人々は自分を満足させるためには惜しみなく金銭を使う。男も女も自分の都合を考えて、自分たちの好みを満たしているが、神へのささげものは、しぶしぶと、切りつめて持ってくる。彼らは神の財産が使用された明細書を神がいずれ要求されることや、神がアナニヤやサツピラのささげものをお受けにならなかったように、彼らが倉に携えてきたわずかなものをお受けにならないことを忘れている。(患難から栄光へ上巻 76)

絶えまない自己否定の慈善が、利己心と貪欲という腐食する罪に対する神の治療法である。神は、ご自分の働きを支え、苦しみ欠乏している者たちの困窮を軽減するために、組織だった慈善の手はずを整えてこられた。このお方は、与えることが習慣となるようにと定められた。そうすることによって、貪欲という危険で欺瞞的な罪をくじくことができるためである。絶えず与えることによって、貪欲は餓死する。……このお方は絶えず慈善を働かせることを要求しておられるが、それは善行の習慣の力が反対の方向に向かう習慣の力を打ち破るためである。(教会への証 3巻 548)

愛をもって

「愛は寛容であり、愛は情深い。また、ねたむことをしない。愛は高ぶらない、誇らない。」(コリント第一 13:4)

イエスが自分たちとともに宿ってくださるように心と家庭を開いてイエスを招く者たちは、争いや辛らつき、怒り、悪意、あるいは不親切な言葉によってさえ、道徳的な雰囲気や曇らせることがないように守るべきである。イエスは論争や、ねたみ、辛らつきがある家庭にはお宿りにならない。……

パウロは健全な宗教経験を持っていた。キリストの愛が彼の壮大な主題であり、彼を司る支配力であった。

もっとも落胆するような状況下にあるとき、それは中途半端なクリスチャンには意気消沈させる感化力を及ぼすようなものであったが、彼の心は堅固で、勇気と希望と励ましに満ちて叫んだ、「あなたがたは、主にあつていつも喜びなさい。繰り返して言うが、喜びなさい」。同じ希望と快活さが、船上のデッキにいて、嵐が彼のまわりに打ちつけ、船が微塵に碎かれようとしているときにも見られる。彼は船長に命じ、船上にいるすべての人の命を守った。彼は囚人であったにもかかわらず、実際的には船の主人であり、船上にいる人々の中でもっとも自由で幸福な人であった。野蛮な島に難破して打ち上げられたときにも、彼はもっとも冷静で、水の墓から仲間を救うのに、もっとも役に立つ人物であった。彼の手で、木を運んできて、凍えて難破した乗客のために火をたいた。彼らがパウロの手を毒蛇がかんだのを見たとき、彼らは怯えたが、パウロは落ち着いてそれを火の中に投げ落とした。それが自分を害することができないことを知っていたからである。なぜなら、彼は神に絶対的な信頼を置いていたからである。

彼の命を手中に握っていた地上の王と高官たちの前に立つても、彼はたじろがなかった。なぜなら、彼は命を神にゆだねていたからである。……恵みは、あわれみの御使いのように、彼の声が十字架の物語とイエスの比類なき愛を語るとき、芳しく、明瞭に聞こえるようにした。(ビュー・アノド・ハルド 1885年9月8日)

愛の働きは、天来のものであるから、ふしぎな能力をもっている。(教育 122)

キリストのような言葉とわざをもって

「あなたは、自分の言葉によって正しいとされ、また自分の言葉によって罪ありとされるからである」(マタイ 12:37)

あなたが、自分が任命された働きを、他人と論争したり、批判したりせずに行うならば、自由と、光と、力がその働きに伴い、それはあなたの関係している施設や事業に品格と感化力を与えることになる。

あなたがいらだいたり、近くに来るすべての魂の誤りを自分が正してあげようとするときには、決して自分が有利な立場にいないことを覚えていなさい。もし、あなたが他人を批判し、彼らの欠点を指摘し、彼らのしていることをかき裂きたい誘惑に屈するならば、あなたは確かに自分自身の役目を高尚に首尾よく果たすのに失敗する。

今こそ、責任ある立場にあるすべての人とすべての教会員が、自分の働きのすべての特徴を神の御言の教えにしたがって厳密に照らしてみるべき時である。倦むことのない見張り、熱心な祈りと、キリストのような言葉とわざによって、わたしたちは、神がご自分の教会に望んでおられる姿を世に示すべきである。
.....

キリストは人類の頭として立つために、人類が会わなければならない誘惑に会い、耐えなければならない試練に耐えるために、ご自分を低くされた。このお方は人類が墮落した敵から何を受けなければならないかを知らなければならなかった。こうしてこのお方が誘惑されている者たちをどのように救うかを知るためであった。

そして、キリストはわたしたちのさばき主となられた。御父がさばき主であられるのではない。御使たちではない。ご自身に人性を負い、この世で完全な生涯を送られたお方がわたしたちをさばかれるのである。このお方だけが、わたしたちのさばき主となることができになる。……あなたがたのうちだれ一人として、他人をさばくように任命された者はない。あなたができるのは、自分自身を律することだけである。……

わたしたちには、維持すべき品性があるが、それはキリストの品性である。……主がわたしたちを助けてくださり、自己に死に、新たに生まれることができるように、それによって、キリストがわたしたちのうちに生き、生きた活動する原則、わたしたちを聖く保つ力がわたしたちのうちに生きることができるようになる。(教会のための特別な証・Series B No.4,19～23)

平安をもって

「あなたは神と和らいで、平安を得るがよい。そうすれば幸福があなたに来るでしょう。」(ヨブ 22:21)

わたしたちは、海峡を渡ってデンマークの岸へと行く小さな船に乗り込んだ。ここで、わたしたちには二つのソファと、厚いカーテンに閉ざされた個室を与えられた。そのときは、わずか六時間の日帰り旅行には、とても必要なさそうに思える部屋であった。しかし、わたしたちは、陸につく前にこの意見を変えるような出来事があった。初めの一時間は、気持ちよく、また設備の整った婦人船室にあるデッキで楽しく過ごした。気候はよく、波は穏やかで、楽しい旅になると思われた。しかし、まもなく船長が来て、船室を通り抜けながら、わたしたちに、下に行くついでに休むようにと言った。海が荒れるからと言うことであった。わたしたちは従ったが、どちらかというとしぶしぶであった。まもなく、船は激しく揺れ始めた。わたしたちは、ほとんどソファにちゃんと横たわっていることもできなくなった。わたしはとても気分が悪くなり、おびたらしい汗をかいて、まるですべての内臓が恐ろしい疾患にかかっているかのようにであった。そして、死ぬほどの船酔いに打ちのめされた。……

死がとても近いように思われた。しかし、わたしは固い信仰によってイエスの御手によりすがることができると感じた。ご自分のたなごころで水を治めるお方は、嵐のうちにあってもわたしたちを守ることがおできになった。深淵の波はここのお方のみ声に従う、「ここまで来てもよい、越えてはならぬ、おまえの高波はここにとどまるのだ」。わたしは、このお方が荒れるガリラヤ湖を静められたときに、どのようにして、ご自分の弟子たちの恐怖を鎮められたかを思った。そうであれば、わたしにこの働きを与えてくださったお方の保護に信頼することを恐れるべきであろうか。わたしの心は完全な平安に保たれた。なぜなら、心がこのお方にとどまったからである。わたしがこの数時間に学んだ信頼の教訓は、非常に貴重なものであった。わたしは人生のあらゆる試練において、わたし自身が依存していることと、わたしの天父に信頼することの新しい教訓が与えられるのを見出してきた。わたしたちは、いかなる場所においても、神がわたしたちとともにいてくださることを信じることができる。そして、あらゆる試練のときに、わたしたちは、すべての力をもっておられるその御手を固く握ることができる。(ヒストリカル・スケッチ 221)

その約束は皆一つもたがわなかった

「主はほむべきかな。主はすべて約束されたように、その民イスラエルに太平を賜った。そのしもべモーセによって仰せられたその良き約束は皆一つもたがわなかった。」(列王紀上 8:56)

眺めることはいつもわたしにとって特権であったが、わたしたちは、もっとも栄光に満ちた日没の光景にであった。言葉では、その美しさを到底言い表すことはできない。日没の最後の光線は、銀、金、紫、琥珀、深紅の光を空に横切って放ち、ますます明るくなり、ますます高く天に向かって上っていた。まるで、神の都の門が開け放たれ、中の栄光がきらめいて、光を放っているかのようであった。冷たい北国の空を照らした驚くばかりの輝きは二時間ほど続いた。それは、偉大な芸術の名匠が天の動くキャンバス上に描かれた絵であった。地上のすべての家庭の上で、またわたしたちが旅をしていた岩に囲まれた平原と、荒々しい山と、さびしい森の上で、まるで神が微笑んでおられるかのようであった。

「上を仰いで見なさい。この栄光は、神の御座から流れる光の光線にしか過ぎない。地上のためだけに生きてはならない。上を見なさい。信仰によって天の家郷にある住まいを眺めなさい」と恵の天使たちがささやいているようであった。この光景はわたしにとって、ノアにとっての約束の虹のようであった。これによって、わたしは神の決して変わる事のない保護の保証をつかみ、忠実な働き人を待ちうけている休息の天を待ち望むことができるようになった。そのとき以来、わたしは神がわたしたちを励ますためにこの愛のしるしを与えてくださったことを感じている。この記憶がある限り、わたしは、美しい光景と、それがもたらした慰めと平安とを忘れることができない。(ヒストリカ・スケッチ 220, 221)

だれであっても、神のみ約束の一つでさえも、その富と偉大さをすべて思いで捉えることは不可能である。ある者は、ある視点から栄光をつかむ。ほかの者は他の視点から美しさと恵とをつかむ。そして魂は天の光にみたまされる。(牧師への証 111)

それらの約束を通して神はわたしたち一人一人に向かって語られ……これらの約束によってキリストは恵と力をわたしたちにお与えになる。(ミストリー・オブ・ヒーリング 92)

神のみ約束はわたしのためである

「主の聖徒よ、主をほめうたい、その聖なるみ名に感謝せよ。その怒りはただつかのまで、その恵みはいのちのかぎり長いからである。夜はよまずがら泣きかなしんでも、朝と共に喜びが来る。」(詩篇 30:4,5)

神のみ約束をみ言葉から取り除くことは、空から太陽を取り除くようなものである。そうなれば、わたしたちの経験を喜ばせるようなものは何もない。神は、ご自分のみ言葉のうちにみ約束を置き、わたしたちがご自分に信仰を持つように導かれた。これらのみ約束のうちにお方は、永遠から覆いを取りのけ、わたしたちに勝利者を待ち受けているはるかにすぐれた永遠の重い栄光のひらめきを与えておられる。そうであれば、わたしたちは、神により頼もうではないか。このお方がこのような栄光に輝くご自分の目的の啓示を与えてくださったことをほめ讃えよう。

わたしたちの行く道に沿って、神はわたしたちの旅路を明るくする約束の花を置いてくださった。しかし、多くの者はこの花を集めるのを拒み、代わりにいばらやあざみを選んでる。彼らは主が天への道をこれほど快適なものとしたことを喜ぶことができるときに、一歩ごとにすすり泣き、嘆いている。

わたしたちが神のみ約束を眺めるとき、わたしたちは慰めと希望と喜びを見出す。なぜなら、それらはわたしたちに無限のお方の言葉を語りかけるからである。正しく、これらの尊い約束を評価するために、わたしたちは、それらを注意深く研究し、詳細にわたるまでそれらを吟味すべきである。もしこれらの約束を自分たちのものとしさえすれば、わたしたちはどれほどの喜びを人生にもたらすことができるであろうか。どれほどのいつくしみを品性に持ち込むことができるであろうか。わたしたちが、上に向かって旅をするとき、道沿いにまかれた祝福について語ろう。キリストがわたしたちのために用意してくださっている住まいについて、わたしたちが語るなら、日ごとに出会う些細なわずらいなど忘れてしまう。わたしたちは、目的地である天の国の雰囲気を呼吸しているようである。そして、わたしたちは、静められ、慰められる。……もっとイエスと天をわたしたちの生活に織り込むことによって神に栄光を帰そうではないか。(ユース・インストラクター 1902年1月23日)

神の変わることのない約束は、あなたの心を完全な平安のうちに保つ。(手紙 27、1886年)

研究 11

七つの封印と生ける神の印



答えは、黙示録 7 章の中にある

「御怒りの大いなる日が、すでにきたのだ。だれが、その前に立つことができようか」(黙示録 6:17)。

先月、わたしたちはこの質問の前に、自らを吟味すべき厳粛な時に生存していることを見ました。

「兄弟がたよ、神のみ言葉が開かれてきた人々よ、あなたがたはこの世界歴史の閉じようとしている光景の中で、どのような役割を担っているであろうか？あなたがたはこれらの厳粛な現実に対して目覚めているであろうか？あなたがたは天と地で進められている偉大な準備の働きを自覚しているであろうか。光を受けてきたすべての人、預言の書を読み、聞く機会のあった人は、そこに記されている事柄に注意を払いなさい、『時が近づいているからである』。……自分が完全に主の側にいることを確認しなさい。真面目な心と震えるくちびるから次の問いが出るようにしなさい、『だれが立ち得るであろうか』。」(世界総会冊子 1902 年 7 月 1 日)。

この厳粛な問いに対する答えは、どこにあるでしょうか。

答えは、黙示録 7 章の中にある：

印する働きは、贖罪の日の調査審判の光のうちに理解されなければならない。

「われわれは、今、大いなる贖罪の日に生存している。……自分たちの名がいのちの書にとどめられることを願うものはみな、今、残り少ない恩恵期間のうちに、罪を悲しみ、真に悔い改めて、神の前に身を悩まさなければならない。われわれは、心を深く忠実に探らなければならない。多くの自称キリスト者がいっている軽薄な精神は、捨て去らねばならない。われわれを打ち負かそうとする悪癖に勝利しようとする者は、みな、はげしく戦わなければならない。準備は、一人一人がしなければならぬ。……すべての者が調べられねばならない。そして、しみもしわもそのたぐいのものがいっさいあつてはならないのである。」(各時代の大争闘下巻 224)

「これは、なんと厳粛な思想であろう。毎日毎日が永遠の中に過ぎ去り、その日のことが天の書に記録される。一度口に出した言葉、一度行なった行為は、二度と取り返すことができない。天使は、善悪ともに記録しているのである。この世のどんなに偉大な征服者でも、ただ一日の記録さえ取り消すことはできない。われわれの行動、言葉、そして極秘の動機でさえも、みな、われわれの運命を禍福いずれかに決定する重要な役割を持っている。たとえわれわれが忘れていても、それらは、義とするかそれとも罪に定めるかの、証言を立てるのである。」(各時代の大争闘下巻 219, 220)

「あなたがたは……身を悩まし、主に火祭をささげなければならない。……」(レビ記 23:27-30)

この厳粛な時に、身を悩ましているかどうかが一宗教のかたちに関わらず、その人の運命を決めます。

「そして主は、……彼に言われた、『町の中、エルサレムの中をめぐり、その中で行われているすべての憎むべきことに対して嘆き悲しむ人々の額にしるしをつけよ。』」(エゼキエル 9:1-4)

「信心のパン種がその力を全く失ってしまったのではない。教会の危険と衰退が最大であったときに、光のうちに立っている小さな群れは、地に行なわれている忌むべきことのために嘆き悲しんでいるのである。しかし、彼らの祈りは特に多く教会のために上る。なぜなら、教会員が世の方法に倣って、事をなしているからである。

この忠実なわずかな者の熱心な祈りは無駄にはならない。主が報復者として来られるとき、このお方はまた信仰をその純潔さのうちに保ち、自らを世のしみに染まないように保ってきたすべての人々の保護者として来られる。神は長く忍んでこられたが、ご自分に向かって日夜叫んでいるご自分の選民のために報復すると約束されたのはまさにこの時である。

命令は、「町の中、エルサレムの中をめぐり、その中で行われているすべての憎むべきことに対して嘆き悲しむ人々の額にしるしをつけよ」である。これらの嘆き悲しんでいる人々は命の言葉を固く保ってきた。彼らは譴責し、勧告し、嘆願してきた。神を辱めてきたある人々は悔い改め、自分の心を神のみ前にへりくだらせた。しかし、主の栄光はイスラエルから去ってしまった。多くの人々はなお宗教の形を続けていたが、このお方の力とご臨在に欠けていた。

このお方の怒りが裁きのうちに表されようとするとき、これらのへりくだり献身したキリストの従者たちは、自分たちの魂の苦悩、すなわち嘆き、涙を流すこと、また譴責や警告のうちに表現される苦悩によって世の残りの人々からは区別される。他の人々が存在する悪に覆いを投げかけ、至る所に蔓延している大きな悪の言い逃れをしようとする一方で、神の誉れと魂への愛に対する熱意を持っている人々は、だれかの恩寵を得ようと沈黙を保ったりはしない。

彼らの義なる魂は日に日に不義なる人々のわざや会話によって苦しめられる。彼らに悪の激しい潮流を止める力はない。そのために、彼らは悲しみと懸念に満たされるのである。彼らは教会の中にあるほとんどあらゆる形態の誇り、貪欲、利己心、欺瞞のゆえに嘆き、自分たちの魂を悩ませている。神の御霊は譴責へと促すが、足の下に踏みにじられ、その一方でサタンの上もべたちが勝利する。神は辱められ、真理は無効にされる。」(教会への証 5巻 209-11)

嘆き悲しんでいる人々の額には印がつけられます。印する働きと調査の働きは同時に行われ、それが終わるまで、四方の風は引き留められています。

「この後、わたしは四人の御使が地の四すみに立っているのを見た。彼らは地の四方の風をひき止めて……」(黙示録 7:1)

「これらは全地の主の前に現れて後、天の四方に出て行くもの(霊)です。」(ゼカリヤ 6:1-5)

「御使たちが四方の風を引き留めているが、この風は飛び出して、行く道に破

滅と死をもたらしながら全地のおもてを走り回ろうとしている怒った馬に表されている。」(今日のわたしの生涯 308)

「ヨハネは御使たちによって引き留められているものとして、自然の要素—地震、大嵐、政争—を見る。」(牧師への証 444)

では、この印する働きは、だれによってなされるのでしょうか。

東からのぼってくる御使

「また、もうひとりの御使が、生ける神の印を持って、日の出る方から上つて来るのを見た。」(黙示録 7:2)

「だれが東から(義)人を起したか。……主なるわたしは初めてであつて、また終りと共にあり、わたしがそれだ。」(イザヤ 41:2-4)

「御使たちが神の僕らの額に印を押してしまうまで、四方の風を引き留めることができるのは、ただ神だけである。」(原稿リ-ス 13 卷 332)

「自然の要素は神の御使たちの力のうちにおかれるのである。このお方は風をこぶしの中に集め、水をご自分のたなごころに集め、雲をおのれのいくさ車とされる。『主は洪水の上に座し、主はみくらに座して、とこしえに王であらせられる』(箴言 30:4; イザヤ 40:12; 詩篇 104:3; 詩篇 29:10)。

イエスは地上におられたときに働かれ、いらだつ風を引き留め、大嵐を支配し、怒った海を静め、大いなる深淵を巻き上げ、壁を積み上げ、エジプトの奴隷のくびきからご自分が救出なさったご自分の百万以上の民が渡るまで道を作り、ご自分が救出されたイスラエルの魂がみな安全に海の向こう側に着くまでハリケーンの水がその自然の道を行くことを許されなかった。そのとき、イスラエルを救うために引き留められていた水は、このお方のみ言葉によって……以前のようにどつと流れかえった……。

神は海に命令を下される。このお方は風の翼に乗って歩かれる。そしてもしわたしたちが憐れみ深くも事故からかくまわれたならば、もし稲光や大嵐がわたしたちを損なうことなく過ぎていったのであれば、もし死を告げる波が誇り高い船舶を飲み込みながらも、わたしたちが目指していた港へその船を運んだならば、そのときわたしたちは感謝のうちに神に頭を垂れ、力強い御使たちの力が、神

のご命令で、風や波を引き留め破壊させないようにしてくれたことを神に感謝しよう。」(原稿別冊15巻220)

「ヨハネの注意はまた別の光景へ向けさせられた。『また、もうひとりの御使が、生ける神の印を持って、日の出る方から上って来るのを見た』(黙示録7:2)。これはだれであろうか?契約の天使である。彼は日の出るほうから来る。彼は上からの日の光である。このお方は世の光であられる。『この言に命があった。そしてこの命は人の光であった』(ヨハネ1:4)。これはイザヤが『ひとりのみどりごがわれわれのために生れた、ひとりの男の子がわれわれに与えられた。まつりごとはその肩にあり、その名は、「霊妙なる議士、大能の神、とこしえの父、平和の君」ととなえられる』と述べているお方である(イザヤ9:6)。このお方は天使たちの万軍の上にあるお方として叫び、『地と海とをそこなう権威を授かっている四人の御使にむかって、……言った、「わたしたちの神の僕らの額に、わたしたちが印をおしてしまうまでは、地と海と木とをそこなうてはならない。』(黙示録7:2,3)。

ここで神性と人性が結合している。四人の御使たちに神の命令を受けるまで四方の風を引き留めておくようにとの命令が与えられる。この章全体を読みなさい。「そこなうてはならない」との叫びは回復者、贖い主によって発せられているのである。」(原稿別冊15巻221,222)

「このかたは、『契約の天使』キリストで、ご自分をヤコブに現わされた。……ヤコブは『天の使と争って勝』った(ホセア書12:4)。(人類のあけぼの上巻215)

「それは、過去の時代に、父祖たちに契約の天使として出現なされたおかたであった。」(人類のあけぼの上巻285)

「主は自分の者たちを知る。」(テモテ第二2:19)

そうです。実にこの働きは、神の権威によってなされている働きであり、キリストによってなされている働きなのです!この働きは、いつなされているのでしょうか。

印する働きは漸進的

「今から後、主にあつて死ぬ死人はさいわいである。」(黙示録14:13)

今から後、という言葉は、印する働きが一瞬、一日の働きなのではなく、期間を要するものであることを示唆しています。その働きと約束にあずかった例を見てみましょう。

「ニコル兄弟と姉妹は、安息日を初めに擁した人々のうちにいた。そして初期段階においてみ事業を支えるために自分たちの資金を惜しみなく手渡した。1844年彼らの門口からコネティカット州のロッキー・ヒルで開催された第三のメッセージを信じる信徒たちの集会まで、わたしたちの費用をまかになったのは、彼女の手からの資金であった。このように十字架を負い、自分たちの資金で実事業を支え、他の人々の益のために勞し、苦しみ、希望のうちに死んだ人々については、次のように言われている、『今から後、主にあつて死ぬ死人はさいわいである』。御霊も言う、『しかり、彼らはその勞苦を解かれて休み、そのわざは彼らについていく』。」(ビュー・アノド・ハルド 1868年4月21日)

「わたしたちの神の僕らの額に、わたしたちが印をおしてしまうまでは、地と海と木とをそこなつてはならない。」(黙示録 7:3)

「サタンは印する働きが終わり、神の民の上に覆いがかけられるまで、彼らをそのままの状態にしておき、最後の七つの災いが下るときに、神の燃える怒りを彼らが避けることができないようにさせようと、あらゆる策を弄していた。神はこの覆いを神の民の上に向け始められた。そしてそれは、ほふられる日に避け所が与えられるすべての者の上に間もなくかけられる。」(初代文集 109)

「印する時は、非常に短くやがて過ぎ去ってしまう。四人の天使が四方の風を引き止めている今こそ、われわれの召しと選びとを確かなものにする時である。」(初代文集 130)

この働きは、1844年以降安息日の印が宣布されて「から」、始まりました。そして、その働きは印する働きが終わり、覆いがかけられる「まで」続きますが、主の預言者は、その時が「やがて過ぎ去ってしまう」と述べています。つまり、始まったばかりの働きなのではなく、まもなく終わろうとしている働きなのです。

この印する働きは神の權威によって行われ、キリストによってなされていることを見ました。それでは、キリストから遣わされた第三天使の役割は何でしょうか。

また、それはだれを指しているのでしょうか。

第三天使の役割

「次に、わたしは、第三天使を見た。……彼は、麦を天の倉に入れるために、麦を毒麦からよりわけて印をおし、……」（初代文集 221）

「わたしたちの神の僕らの額に、わたしたちが印をおしてしまうまでは、地と海と木とをそこなってはならない。」（黙示録 7:3）

「わたしは、地上でなすべき働きを持っていた四人の天使たちが、その働きを成し遂げる途中にあるのを見た。イエスは祭司の衣をまっとうおられた。彼はあわれみの情をもって残りの民をごらんになった。それから、両手をあげて、深いあわれみのこもった声で、「わたしの血、父よ、わたしの血、わたしの血、わたしの血！」と叫ばれた。すると、白い大きなみ座に座っておられる神から、非常に輝かしい光がでてきて、イエスのまわり一面を照らすのを、わたしは見た。それから、イエスからの任務を帯びた一人の天使が、地上でなすべき働きを持っていた四人の天使たちの所に、速やかに飛んでいって、手に持った何かを上下に振って、大声で、「神のしもべたちの額に印が押されるまで、待て、待て、待て、待て！」と叫ぶのを、わたしは見た。わたしは、わたしと一緒にいる天使に、わたしが聞いたことの意味と、四人の天使が何をしようとしているのかを尋ねた。彼は、わたしに、諸勢力を制しておられるのは、神であって、神が地上のことに関して、天使たちに任務を与えておられるのであると言った。……あわれみ深いイエスの目が、まだ印されていない残りの民をごらんになって、彼は天の父に向かって手をあげて、ご自分が彼らのために血を流されたことを訴えられたのだと言った。そこで、もう一人の天使が、四人の天使たちのところに速やかに飛んで行く任命を受けた。そして、神のしもべたちが生ける神の印を彼らの額に押されるまで、引き止めるようにと彼らに命じたのであった。」（初代文集 99, 100）

「東（日の出る方）から力強い天使が上ってくるのが見られる。この最も力強い天使は、その手に生ける神、すなわち唯一命を与えることができ、不死、永遠の命を授けられる人々の額にしるし、あるいは銘を記すことのできるお方の印を持っている。四人の御使たちに、この働きが成し遂げられるまで、すなわち解いても良いとの命令を与えるまで、四方の風を引き留めておくように命じる権威を持

っているのは、この最高の天使の声である。」(牧師への証 444, 445)

「イエスは、聖所における奉仕を終わり、至聖所にはいって、神の律法を納めた箱の前に立たれたときに、世界に対する第三のメッセージをたずさえたもうひとりの力強い天使を、お送りになった。」(初代文集 414)

「黙示録 14 章の三人の御使たちは神のメッセージの光を受け入れ、このお方の代理人として地にあまねく警告を鳴り響かせるために出ていく人々を表している。」(教会への証 5 巻 455, 456)

この印する働きは、生ける神、すなわち唯一命を与え、またその印(銘)を記すことのできるお方の権威によってのみ成し遂げられます。そして、それによって、このお方の印を受けた人々は、イエスから遣わされた第三天使として出ていくのです。

しかし、その権威はただキリストにのみあります。ですから、出ていく民が、ただキリストの権威によってのみ、この働きを成し遂げるとき、それは完成することができるのです。

まつりごとはその肩にあり

「ひとりのみどりごがわれわれのために生れた、ひとりの男の子がわれわれに与えられた。まつりごとはその肩にあり：」(イザヤ 9:6)

「わたしはまたダビデの家のかぎを彼の肩に置く。彼が開けば閉じる者なく、彼が閉じれば開く者はない。」(黙示録 3:7-8 参照) (イザヤ 22:21, 22)

「主は仰せられる、見よ、わたしがダビデのために一つの正しい枝を起す日がくる。彼は王となって世を治め、栄えて、公平と正義を世に行う。その日ユダは救を得、イスラエルは安らかにいる。その名は『主はわれわれの正義』となえられる。」(エレミヤ 23:5, 6)

「見よ、その名を枝という人がある。彼は……主の宮を建てる。」(エペソ 2 章参照) (ゼカリヤ 6:12)

「すべての事は父からわたしに任せられています。」(マタイ 11:27)

「わたしは、いっさいの権威を授けられた……」(マタイ 28:18)

「彼を、すべての支配、権威、権力、権勢の上におき、また、この世ばかりでなくきたるべき世においても唱えられる、あらゆる名の上におかれたのである。そして、万物をキリストの足の下に従わせ、彼を万物の上にかしらとして教会に与えられた。」(エペソ 1:21, 22)

「そして、神は教会の中で、人々を立てて、……管理者 (governments)、種々の異言を語る者をおかれた。」(コリント第一 12:28)

「神はご自分の民が人に頼り、肉を自分の腕としている間は、その御名に栄光を帰すことがおできにならない。彼らの現在の弱い状態は、キリストだけが高められるまで、すなわちバプテスマのヨハネと共に、彼らがへりくだった敬神の心から「彼は必ず栄え、わたしは衰える」という時まで続くのである。神の民に語るべき言葉がわたしに与えられた。「彼を掲げよ、カルバリーの人を。すべての人が、自分たちの永遠の命の希望が集中しているお方を眺めることができるように、人性に後ろに引き下がらせよ。……すべての声はヨハネと共に、「見よ、世の罪を取り除く神の小羊」と宣布しなさい。(教会への証 5 巻 729)

イスラエルの政治の特徴は、組織が実に行き届いていることであって、その徹底的なことと共に、単純なことも驚くばかりであった。……」(人類のあけぼの上巻 445)

キリストは御父よりいっさいの権威を授けられ、そのまつりごとは完全にこのお方の肩にかかっています。

では、このお方の完全を表す「7」という数字を見てみましょう。

このお方の完全なみわがが約束された契約は、いくつの封印で確認されたでしょうか。

またこのお方の贖いの完成を表す印は、第何日目の安息日でしょうか。これらが、数字の「7」であることは、わたしたちにとって大いなる福音ではないでしょうか。なぜなら、それは神様によって成し遂げられるみわがであることを告げ、完全と完成が保証されているからです。

7 という数字 (THE NUMBER SEVEN)

7 は最も完全な数字である、Seven is a number most complete;

7 年はヨベルの年を成す、Seven years compose the jubilee;

7 日はクリスチャンの週を成す、Seven days compose the christian week;

7 は神格に帰する。 Seven attributes the Deity.

7 つの軌道が太陽のまわりをめぐると言われ、Seven orbs we say revolve the sun;

7 色が虹の恵みを成す、Seven colors do the rainbow grace;

7 つの不思議が世においてなされた、Seven wonders in the world were done;

マリヤの歩みから7 つのレギオンが出た。Seven legions were of Mary's race,

7 つの灯が金の器の中にあり、Seven lamps within the golden bowl,

7 つの管はすべてから輝いた、Seven pipes did shine from every one;

7 つの目が石にあるのがヨシュアに示された、Seven eyes to Joshua shown on stone;

7 つの目がゼルバベルの下げ降りと共に。Seven eyes with Zerubabel plumb.

7 人の祭司たちはエリコのまわりをめぐる、Seven priests round Jericho compassed,

7 つの雄羊の角のラツパが鳴り響く、Seven trumpet of ram's horns to sound,

7 日は大崩壊をもたらした、Seven days did bring a certain blast,

7 は壁をことごとく地に崩した。Seven brought the walls all to the ground.

古代アジアの7 つの教会は恵まれた、Seven churches ancient Asia graced;

7 つの燭台がその中におかれた、Seven candlesticks therein were placed;

7 つの封印がかつて書物に押された、Seven seals were once upon the book,

7 はユダ族のししによって破られた。Seven were by Judah's lion broke.

7 本の角が羊に見られた、Seven horns were seen upon the Lamb;

7 は龍の持つ頭である、Seven were the heads the dragon bore;

7 人の御使が神の命令で飛んで行った、Seven angels flew at God's command,

7 つの怒りの杯がそそがれる。Seven vials of his wrath to pour.

7度祭司たちに油がふりかけられ、Seven times with oil the sprinkling priests,
神のみ座の前でふりかけられた、Sprinkled before the throne of God;
7度、キリストの型であるその指は、Seven times that finger, type of Christ,
恵みのみ座に血をふりそそいだ。Sprinkled the mercy seat with blood.
(サイン・オブ・タイムズ (HIMES) 1840年11月15日)

(52 ページの続き)

スさまは非難を受けられましたが、これは耐えがたいものでした。

イエスさまの兄弟たちはラビの味方でした。彼らは、これらの教師たちの言葉を神さまの言葉として注意を払うべきだと言いました。彼らはイエスさまが自分を民の指導者たちの上においてお高くとまっていると非難しました。

ラビたちは自分たちが他の人々よりも良い者だと思っていましたので、一般の人々と交わろうとしませんでした。貧しく無知な人々を彼らはさげすんでいました。病気で苦しんでいる人々でさえ、彼らは希望もなぐさめもないまま放っておきました。

イエスさまはすべての人に愛情深い関心をあらわされました。このお方はご自分が出会った苦しんでいる人をみな、助けようとされました。このお方にはあげるお金はほとんどありませんでしたが、他の人を助けるためにたびたびご自分の食事をぬかれました。

イエスさまの兄弟たちが貧しく不幸な人に荒々しく話すと、イエスさまはその人たちのところに行って、やさしい励ましの言葉をかけられるのでした。

飢えかわいている人々には、コップ一杯の冷たい水を持っていき、しばしばご自分のために用意された食事を彼らにお与えになるのでした。

こうしたすべてのことがこのお方の兄弟たちを不愉快にしました。彼らはこのお方をおどし、ふるえ上がらせようとしてしました。しかし、このお方はそのまま歩みつづけ、神さまが言われたようになさるのでした。

イエスさまがあわなければならぬ試練(しれん)や誘惑(ゆうわく)はたくさんありました。サタンはいつもこのお方を打ちまかそうと見張っていました。

もし、イエスさまを一つの間違った行為をさせるように、あるいは一つの短気な言葉を語るように導くことができるなら、このお方はわたしたちの救い主であることができなくなり、この世界全体が失われるのでした。サタンはこれを知っていました。そしてこのために、彼はイエスを罪に導き入れようと一生懸命努めたのでした。

救い主はいつも天のみ使に守られていましたが、それでもなおこのお方のご生涯は闇の力との長い戦いの生涯でした。わたしたちのうちだれ一人として、このお方のように、激しい誘惑に直面しなければならぬ者はありません。

しかしイエスさまはどの誘惑に対しても「聖書にこう書いてある」という一つの答えで応じられました。ご自分の兄弟たちの悪い行為をとがめるようなことはめったになさらず、しかしこのお方は、神さまが何と言われたかを彼らにお語りになりました。

ココナッツクッキー

■材料

薄力粉	250 グラム
全粒粉	50 グラム
サラダ油	100 グラム
砂糖	100 グラム
黒糖	小さじ1
塩	少々
豆乳	20 グラム
ココナッツスライス	40 グラム
シナモン	少々
ナッツメグ	少々

■作り方

1. 粉以外の物を全部ミキサーにかけてそれをボールに入れます。
2. そこへ粉を入れたらザクザク混ぜ合わせ、なめらかになるまで混ぜます。
3. それをまるめてクッキングシートの上のにせ、麺棒でオープンバットの大きさに広げます。その上からアーモンドスライスをまんべんなく乗せてその上からオリゴ糖の液体を刷毛で塗ります。
4. 均等の大きさに切ってそのまま180度のオーブンで25分焼きます。
5. できあがったら熱いうちにもう一度切り目に添って包丁で切り分けておきます。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理

お申込先 : 〒 350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。



書籍

【永遠の真理】 聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】 は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



イエスの物語

第11話 戦いの日々(1)

ユダヤの教師たちは人々のために多くの規則を作り、彼らに神さまが命じておられない多くのことをするように要求しました。子どもたちでさえ、これらの規則を学び、従わなければなりません。しかしイエスさまは、ラビたちが教えることを学ぼうとされませんでした。このお方はこれらの教師たちを敬わないような話し方をすることがないように気をつけておられましたが、このお方は聖書を研究され、そして神さまの律法に従われました。

しばしば、このお方は、他の人たちがしていることに従わないためにとがめられました。そのときこのお方は、聖書から何が正しい道かを示されました。

イエスさまはいつも他の人々を幸せにしようとされました。このお方はとてもやさしく親切でしたので、ラビたちはこのお方に自分たちがしていることをさせたいと思いました。しかし、彼らはできませんでした。彼ら

の規則に従うようにせまられると、このお方は、聖書は何と教えているかとおたずねになりました。聖書が述べていることであればどんなことでも、このお方はなさるのでした。

これはラビたちを怒らせました。彼らは自分たちの規則が聖書に反していることを知っていましたが、それでいながら、イエスがそれらに従うことを拒まれるのを不愉快に思いました。

彼らはイエスさまの両親にこのおかたについて苦情を言いました。ヨセフとマリアは、ラビたちは良い人だと思っていましたので、イエ

